

第 24 回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	高齢社会を生きる会		
開催日時	2023年2月4日		
テーマ	男性介護「認知症の妻への1975通のラブレター」		
形式	講演会		
講師等	金森 一臣 さん		
参加人数	女性 42名	男性 3名	合計 45名

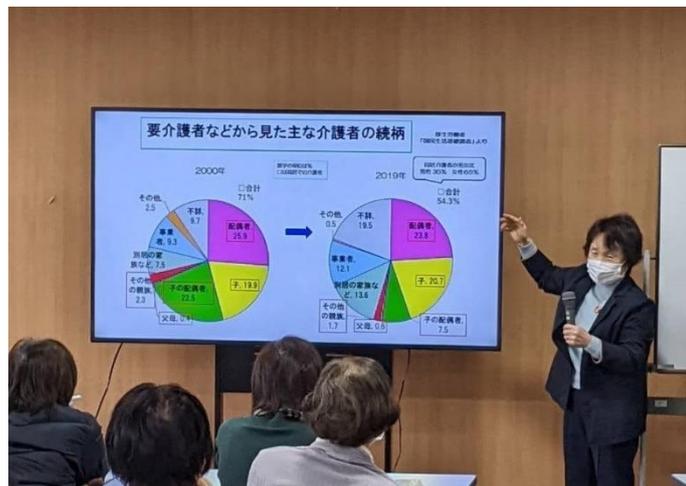
〈内容〉

超高齢社会において人生100年時代を生きるための学習として、今回は介護をテーマとしました。在宅介護が主流となっている今、その実体験、特に男性介護の話聞き学びました。

講師金森一臣さんによる講演の前に、金森さんのこれまでの介護の状況が記録されたドキュメンタリー映像を見ました。その後、講演をいただき、質疑、ディスカッション、データ要介護者などから見た介護者の続柄（厚労省）の紹介をし、全体のまとめをして終了としました。



講師：金森 一臣 さん



〈参加者の感想〉

以下アンケートをご紹介します。

- 具体的であること、解り易い（大変良かった）
- 実際のお話でご本人からなので（大変良かった）
- 金森さんから直接貴重なお話を聞くことができよかったです。
金森さんの誠実なお人柄や薫ちゃんへのやさしさが伝わってきました。
- ビデオのハウジングが気になった。いらん音声も混じっていて聴きづらかった。
総じて、羨ましいことばかりでした！
でも、ドラマ『記憶のはっば』の通り！の方だった!!
私は今要介護5の父の姿と、施設に任せっきりで（コロナ以前から！）面談もままならない母と、両親の姿を目の当たりにして、かれこれ9年目です。
夫婦の愛情って何だろう??
- 認知症介護について、予備知識を得られました。
- 妻が老人介護の仕事（看護師）しているのである程度、介護の大変さを認識していましたが、改めて介護の大変さを実感しました。
- 12年2ヶ月の家庭での介護、いかに大変だったかと思えます。夫にも聞いてほしかった。
夫が妻の介護をする事のかっとう、涙ながら聞かせて頂きました。
薫ちゃん幸福だと思います。
老々介護、これから考えさせられる事多いです。
- 長い介護生活お疲れ様でした。家では女が夫の親もめんどろをみるのがあたり前という時代が続き、その代しよは求めず、でしたが、それが逆の場合、どんなものなのか想像が付きませんでした。男の人が介護をするというのは私の親では不可能だったので、金森さんの努力には頭が下がり感心しています。これは愛がなければできない事だったでしょう。彼女はとても幸せだと思います。
これからもお身体を大事にされて、趣味を楽しんで下さい。また奥様をはげまされ、声をかけ続けてあげて下さい。男性の介護がもっと世の中でもあたり前のこととして、ふつうに広がる事を願います。
男性の介護がむづかしい理由は、男性は産まれた時から家事・育児に参加してこなかった。だからいざ親、配偶者の介護の段階になって、おたおたする。男性はもっと家事に参加すべきである。
- DVDの音が聞きとれにくかったのは残念でした。
- 何ごとにも絶対ということはないが、すごい介護をされた薫ちゃんは幸せだと思う。金森さんのように発信していく事も大事だと思う。
もし自分が介護する様になった時は周りには解ってもらって、お互いに助け合っていきたいと思う。大変参考になった。
- 今までは女性の立場での介護が主流の会が多かったので、男女の別なく“人”としての終末についての心がまえについて学びたい。
- 77才の私、最近忘れることのみ多かりき。アルツハイマーが一番恐いです。
子供のない夫婦ですが、夫が介護してくれないと思います。一臣さんのすばらしさに感動しました。
- 12年間もの長い間、介護経験され、しかもそれをお話しして下さり、こういう男

性もおられるのだということを知り、大変良かったです。

- ・投稿文から想像する以上の壮絶な日々があったことが分かった。貴重なお話感謝します。
- ・男性、女性関係なく、少しでも家族の介護のために役立てたい。
- ・大変さが良くわかりました。
- ・生のことばで介護の現実を語っていただけて、とてもよかったです。
- ・万一、自分が妻の介護をする状況になった時の心の持ち方がとても参考になりました。
- ・私の両親は90歳を超えて2人で自宅で生活をしています。母は認知症を患い、父が排泄・料理・洗たく等介護をしています。父の気持ちはなかなか喋ってはくれません。

金森さんのお話をお聞きして、父の思いがわかりました。娘としては、笑顔でサポートしていければと思っています。ありがとうございました。

- ・一臣さんの生の声でかおるちゃんとの介護生活のお話を聞き、想像しながら、日々の生活におもいをはせました。私思うのに、かおるちゃんは幸せだったと思います。

これからはご自身の体を大切にしてください。一臣さん頑張ったよ!!

- ・「薫ちゃんは、女の子なので、オシャレには気をつかい……。」このような男性もいるのだ!と思いました。私の周りにはいない! 私は、女の子と言われたのは、いつのことだろう…。と思いました。

うらやましい!と思いました。

- ・夫婦のきずなの強さ、本当に頭の下がる思いです。ありがとうございました。
- ・金森さんのひとこと、ひとことが両親の姿を思いおこさせてくれました。ありがとうございました。

これからもお元気でお過ごしください。

- ・涙が止まりませんでした。誠実…人間の原点を知らされました。私もそうありたい、誰に対しても。

最後に見せていただいた円グラフとても良い。勉強になります。

- ・他の方のいろんな体験談、現状を聞いてよかった。
- ・へんろ道を読んだり、ドキュメントを観たりしていたが、直接お話を聞き、深く考えさせられた。
- ・介護のむつかしさを感じました。これからの自分の事として…考えさせられました。
- ・金森さんは生きざま（薫さんへの思い、きずな）が深く深く感じられました。私は夫を観送りました。
- ・こう言う会を企画された事、良かったと思います。
- ・つれあいの妻をもっと大切にしていきたいと感じました。

〈まとめ〉

介護保険の後退が問題になる中で、増えている「男性介護」をテーマに考えることにした。愛媛新聞の投稿で有名な金森さんに講演を依頼し、打ち合わせの結果、介護の日常が録画されたビデオを放映し、後半で講演をしていただいた。家族に介護者が出たとき家族の戸惑いや苦しみ、その後の介護への向き合い方など多くのことを学ぶことができた。参加者からの評価も高く、たくさんの感想をいただいた。介護保険法ができる前と導入後の介護者の変化をグラフで示し、介護の社会化の必要性を共有した。会としては今後、団塊の世代が後期高齢者となる大介護時代を迎えるにあたり、引き続き介護問題に取り組んでいく予定です。